

復興計画の実際と今後の課題

—酒田市大火と阪神・淡路大震災の事例から—

阪神・淡路大震災の復興事業がほぼ終わった神戸市は、都市の外観を見る限り、当時の被害の記憶をたどるのが難しいほどに見事に再生した姿を見せています。一般に、災害後の都市復興は、迅速な生活復旧要求と本来は時間のかかる復興計画との狭間で、復興関係者間の利害や経費負担の調整を行いながら、また地区ごとの被災程度や実情をも踏まえながら、様々な整備手法を駆使してきわめて短時間で取り組む必要があり、その目標達成に至る道には大変な困難が付きまとうものです。

今回の公開セミナーでは、阪神・淡路大震災における復興計画とその原点ともいえる酒田市大火の復興計画に関わったご経験をお持ちの二人の講師に、これらの復興計画の事例とその実現過程での苦勞、教訓などについてご講演をいただき、さらに、今後の都市復興を行う上での課題などについてフロアを交えて議論したいと考えています。

■ プログラム

- 13:30 開会(開場13:00)
- 13:30-13:45 主題解説
関澤 愛 東京大学大学院工学系研究科 特任教授
- 13:45-14:45 阪神・淡路大震災の復興計画に携わって
上原 正裕 (社)兵庫県建築士事務所協会 事務局長
- 14:45-15:45 酒田市大火の復興と阪神・淡路大震災
平井 邦彦 長岡造形大学造形研究科 教授
- 16:00-17:00 パネルディスカッション
- 17:00 閉会

■ 日時

2009年7月28日(火)13:30-17:00

■ 会場

東京大学山上会館大会議室

■ 参加

定員 100名程度
参加費 無料

■ お問い合わせ

東京大学大学院都市工学専攻関沢研究室
助教 廣井 悠
<http://www.fse.t.u-tokyo.ac.jp/index.htm>
shobo@fse.t.u-tokyo.ac.jp



2009.07.28(火)
13:30-17:00(13:00開場)
東京大学山上会館大会議室